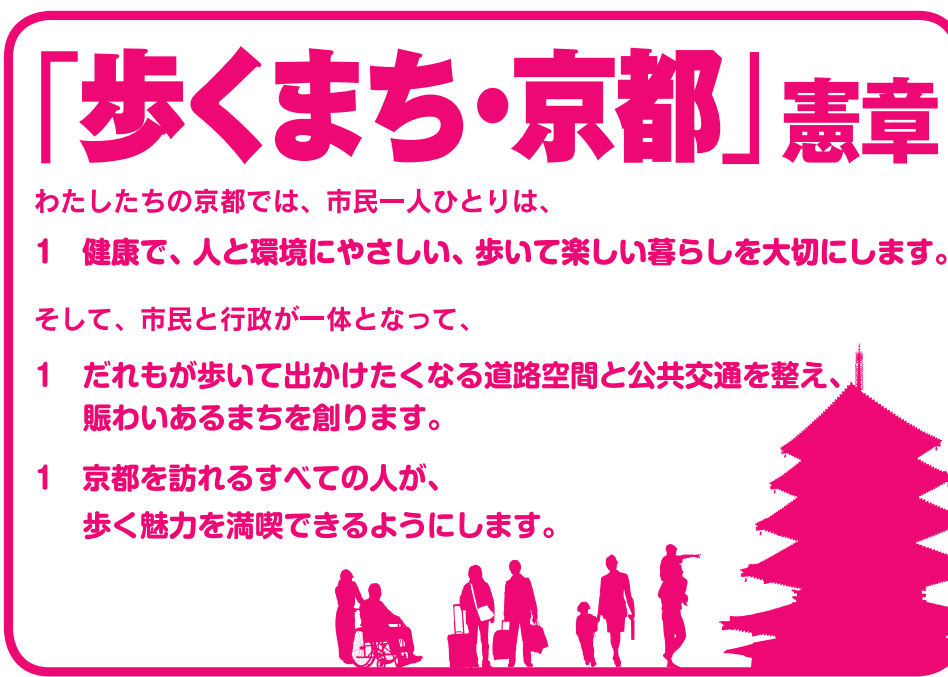


小学校における「歩くまち・京都」プロジェクト ～モビリティ・マネジメント教育の継続的・広域的展開に向けて～

矢内 克志・岡本 智至・瀧 明日香（京都市都市計画局歩くまち京都推進室）
水山 光春（京都教育大学）
藤井 聡（京都大学大学院工学研究科）

岡本 英晃（公益財団法人 交通工コロジー・モビリティ財団）
東 徹（一般社団法人システム科学研究所）

「歩くまち・京都」憲章の制定



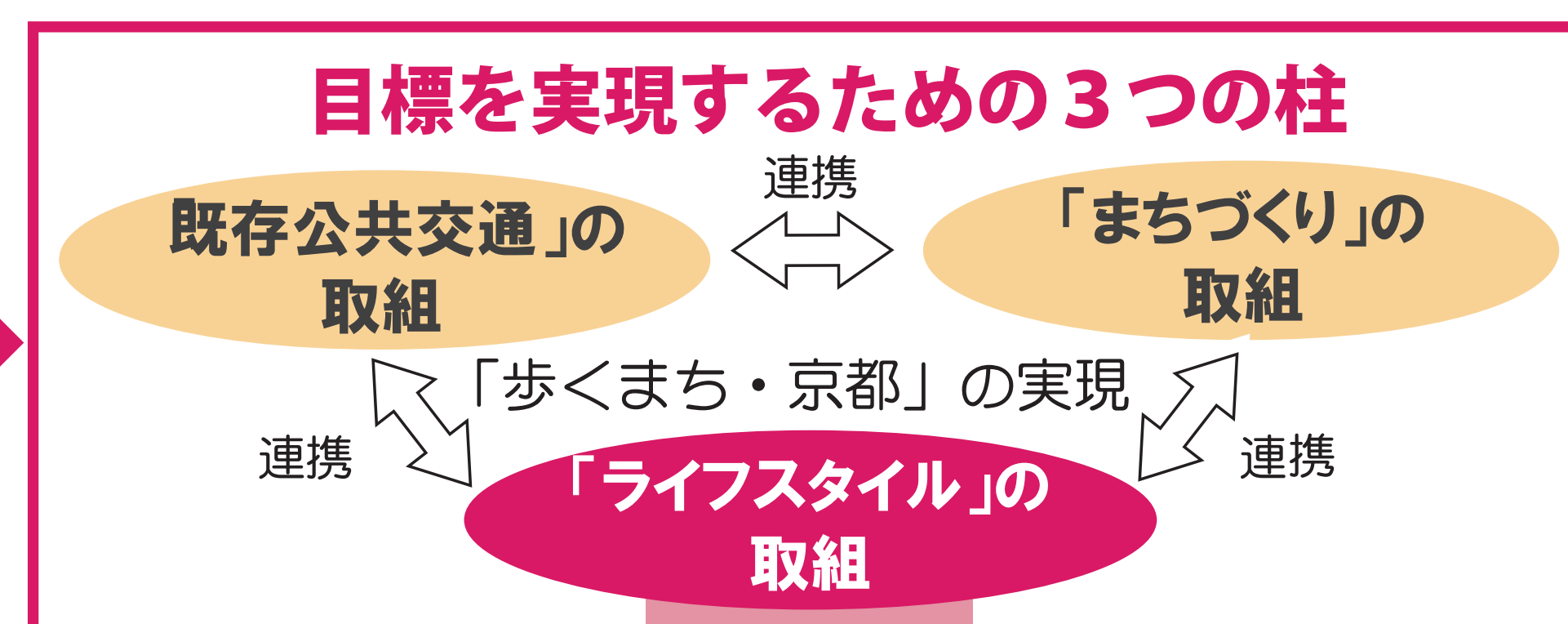
平成22年1月23日、市民・観光客の皆様、そして事業者、行政が一体となって「人が主役の魅力あるまちづくり」を進めるための事柄を明確にするために「歩くまち・京都」憲章を制定

理念実現のための
具体的な取組

「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定

憲章の理念を実現するために、3つの柱に基づく88の実施プロジェクトを掲げた「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定

非自動車
分担率を
72%から
80%以上に



モビリティ・マネジメント教育

平成24年度に「学校MM検討会」（現「歩くまち・京都」学習検討会）を設置し、「モビリティ・マネジメント教育」の普及に向けて検討を開始。教員の提案に基づき「学校MM検討会」での議論を通じて発達段階に応じた指導方針・学習指導案・教材を作成。

低学年

バスとの親近感を育む

バスに関する知識やバスに対するおもしろさをクラスで共有することを通じて、バスに対する親近感を育む、すなわち、「バスと仲良くなる」ことを目指す。

中学年

自分の生活とクルマとの関わりを学ぶ

過度なクルマ利用による問題等を通して、自分とクルマとの関わりを多面的に考えさせる。加えて、行動変容の動機づけを行い、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。

高学年

社会とクルマとの関わりを学ぶ

社会とクルマとの関わりを考えさせることを通じて、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。さらに、社会の問題は1人では解決できなくても、仕組みを変えていくことで解決できることに気づかせる。

平成27年度の取組

①「歩くまち・京都」学習実践校の募集

- 学校全体として「モビリティ・マネジメント教育」に取り組む「歩くまち・京都」学習実践校を募集し、3校選定
- 次年度より、MM授業を実施

② ガリバーマップの作成

- 京都市街地のガリバーマップを1部作成（六畳サイズ：286cm×382cm、布製）
- 作成費：約36,000円



平成28年度の取組

①「歩くまち・京都」学習実践校における取組の実施



- 岩倉北小学校（左京区）6年生
「歩くまち・京都」のシンボル事業である四条通歩道拡幅事業をテーマに「歩くまち・京都」の理念について8時間かけて学習し、公開授業を実施。また、5年生の「情報」の授業でバスロケーションシステムに関する授業を実施。



- 高倉小学校（中京区）6年生
京都大学大学院山田忠史准教授のMM講義の後、地域住民と一緒に「歩いて楽しいまちなか」の実現に向けたワークショップ形式の授業を実施。他、3・4・5年生でも取組を実施。



- 南太秦小学校（右京区）6年生
地域が主体的に取り組んでいる市バス70系統に関するMMについて、自治会長からMMの講演を受講。他、4年生でも取組を実施。

② ガリバーマップの作成

- 昨年度と同様の六畳サイズのガリバーマップを、A0版×15枚（紙製）で200組作成
- 作成費：約3,000円/組
- 市内の全小学校に配布



平成29年度の取組

- 昨年度新たに募集し、選定された「歩くまち・京都」学習実践校5校によるMM授業の実施
- 「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）の開催
- ガリバーマップを使った授業の実施例を収集・広報



今後は、継続的に「歩くまち・京都」学習実践校を募集・選定し、学校におけるまちづくりと交通に関する政策を題材とした、望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」を学ぶ取組を通じて、「歩くまち・京都」の実現を図っていく。